

さしまの風

発行所 杵藤農林事務所杵島農業振興センター
 佐賀県杵島郡白石町大字東郷2546-2
 TEL0952-84-3625 FAX0952-84-6425
 E-mail : kitounourin@pref.saga.lg.jp
 URL : http://www.pref.saga.lg.jp/list02464.html

令和4年8月

第55号

21世紀の主役たち

江北町
山中研一さん (37歳)
 経営規模
 施設キュウリ 25a
 米麦大豆 4ha



**目指せ！
 キュウリ反収40トン！！**

山中さんは、就農されて今年で5年目。令和4年10月より江北町でキュウリ25aの栽培を開始されます。就農時は父とともに米、麦、大豆を4ha栽培されていましたが、ハウス栽培に興味をもたれ、3年前、農業振興センターが開催した研修会に参加したことがきっかけで、武雄市にあるキュウリトレーニングファームに入校されました。研修中はフエンロー型ハウスで暖房機や炭酸ガス発生装置、自動灌水装置などの環境制御を駆使した栽培技術を熱心に学ばれ、令和4年5月に修了されました。この経験を活かし「経営者として雇用をうまくまわし、反収40トンを目指したい」と意気込まれています。

「トレーニングファームで培った人脈は、一生の宝物」と語られる山中さん。修了後も先輩キュウリ農家の皆さんと情報交換を積極的に行い、技術研鑽に燃えています。また、5年前から武雄・杵島地区4Hクラブに加入され、本年度は会長に就任されました。

4Hクラブでは他品目の方との意見交換に刺激を受けていると語られる山中さん。「今年も、交流をメインにしたイベントを展開していくことで、クラブ員の経営発展に寄与したい」との考えです。

今後の目標は「佐賀県トップの反収をとれるキュウリ農家になること」。研修中に身につけたキュウリの状態の見極め方法と環境制御技術を駆使して、安定的に高収量を確保し、更なる規模拡大も視野に入れておられます。

キュウリ栽培において、先進的技術で牽引されていく山中さんから目が離せません。

地域情報コーナー

農業改良普及センターから 農業振興センターへ

効率的・効果的な
 支援体制を目指して

センター長 西岡 廣泰

今年度より、杵島農業改良普及センターと杵藤農林事務所農政課が統合し、『杵島農業振興センター』へと拡充しました。振興センターで、補助事業等の推進と技術・経営指導を一体的に取り組み、より効率的・効果的な支援ができるようにするためです。

杵島農業を巡る情勢は、海外情勢や円安等による資材価格の高騰、新型コロナ禍の脅威、気象災害の常襲など、これまで以上に厳しくなっています。しかしながらそれらの情勢に立ち向かい、全国に誇れる食料基地としての責任を果たしていかなければと思っております。

中山間における農業振興、新規就農者の確保・育成、そして令和元年から取り組んでいる「さが園芸888運動」など課題に対応した取り組みを、関係者各位そして生産者の皆様と共に、杵島農業振興センターは継続して取り組んでまいりますので、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

タマネギ収穫機の実演会を開催

県JA、白石町主催で5月11日、白石町でタマネギ収穫機械化体系の実演会を開催しました。当日は、生産者、関係者70名の参加があり、昇降機付きピッカーと鉄コンテナ搭載の追従型運搬車による収穫作業の機械化体系を見学し、性能を確かめました。参加者は機械の基本的な操作や作業効率を機械メーカーの担当者に熱心に質問され、「コストや面積の兼ね合いもあるのが即導入は厳しいが、早いし、楽になる。収穫作業だけでなくコンテナを上げ下ろす運搬も軽減できる。とても魅力的である」と実演会の感想を述べられました。



武雄杵島地区土地利用型経営研究会 設立三十周年式典開催

武雄杵島地区における水田農業振興のため、生産者自ら設立した研究会が三十周年を迎えるにあたり記念式典が開催されました。江口和広会長が「先人への敬意と多くの先輩方々や関係機関へのご尽力への感謝とともに、厳しい情勢に打ち勝つ強い農業経営者として地域農業の持続的な発展に貢献していきたい」と挨拶。歴代会長への感謝状授与後、佐賀県信連杉原浩樹様から「今後の農業情勢に打ち勝つ農業経営とは」と題して記念講演がありました。

設立四十周年に向けて、今後ますます活躍されることを期待します。



令和5年度 佐賀県農業大学校 学生募集 【定員50名】

露地野菜農産・施設野菜・花き・果樹・畜産コース

推薦入試試験日
 令和4年10月7日(金)

一般入学試験日
 令和4年12月9日(金)

◎詳しくは、佐賀県農業大学校
 0952-45-2144 まで